

1. 評価報告概要表

作成日平成 19年 7月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500721
法人名	有限会社メディカルショップフクシマ
事業所名	グループホーム チューリップ
所在地	群馬県太田市東今泉町866 (電話) 0276-37-6526

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年7月24日

【情報提供票より】(H19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	利用定員数計 5 人 常勤 3人, 非常勤 5人 常勤換算5.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての, 1階 ~ 1階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 冷暖房費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 60000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	5 名	男性	1 名	女性	4 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	78 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	太田福島総合病院 富士ヶ丘病院 長島歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

少人数の入居者で構成されているこのホームは、入居者、職員間に家庭的な雰囲気があり、お互いの関係性の深さがある。また職員は日頃の入居者との関わりの中から、それぞれの得意分野を把握し、生活暦も考慮した上で草取りや食事作り準備、食堂の片付けなどを押し付けでない促しで行ってもらい、役割を提供して生活に張りをもって暮らしていけるよう支援している。このような日頃の細かな入居者の変化を見逃さない姿勢は、きめ細かな介護計画にも表れており、計画立案、実施、評価を行いその人らしい暮らしが継続できるよう取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で見出された課題についてマニュアルを整備するなど改善できた部分もあるが、全ての改善部分に対して取り組みが進んでおらず、実践に結びつかないところもある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催しているが、ホームの近況報告が中心で、参加者も協力病院医師と家族、行政担当者が主で意見、要望、質問は少なくサービスの向上に活かすまでには至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時はその利用者の日頃の様子や健康状態をお伝えし、ホーム便りにて外出時の様子などを写真つきで知らせている。また家族に運営推進会議に参加していただいているが、意見等はほとんどみられず、意見を運営に反映させるに至らない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域へ散歩や買い物に行く機会はあるが、町会、自治会等へは参加しておらず、地域の方々との交流がほとんどない。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人の個性や能力、個別性の尊重」という理念のもと利用者主体の支援が行われているが、理念の中に地域密着型サービスについてその意味付けはなされていない。	○	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの意義をすべての職員で確認し、ホームが果たすべき役割を反映した理念づくりを進めていただきたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「その人の個性や能力、個別性の尊重」という理念を念頭におき、玄関のボードに張り出し日々意識しながらケアに取り組んでいる。また具体化されたホームの運営方針や目標について、職員会議等を通じて職員に伝達、共有している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域へ散歩や買い物に行く機会はあるが、町会、自治会等へは参加しておらず、地域の方々との交流がほとんどない。	○	地域住民の一員として町会や自治会への参加や、隣近所にホームの運営について説明したり立ち寄っていただけるよう自ら働きかける努力をしてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で見出された課題についてマニュアルを整備するなど改善できた部分もあるが、全ての改善部分に対して取り組みが進んでおらず、実践に結びつかないところもある。自己評価は職員全員で取り組んだ。	○	評価で見出された課題には具体案を検討し改善計画を立て実践に結びつくよう努めていただきたい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催しているが、ホームの近況報告が中心で、参加者も協力病院医師と家族、行政担当者が主で意見、要望、質問は少なくサービスの向上に活かすまでには至っていない。	○	ホームの課題を参加者で検討、共有し、意見が引き出せるような運営推進会議を行っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は運営推進会議以外での市町村の関わりはなく連携は図れていない。	○	市町村の窓口にはホームの現状やケアサービスの取り組みを折りに触れ伝え、担当者や課題を協働で解決していくなど連携を図ってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時はその利用者の日頃の様子や健康状態をお伝えし、ホーム便りにて外出時の様子などを写真つきで知らせている。金銭管理についても一人ひとりにおこずかい帳を用意し買った物のレシートと残高を記録し確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は運営推進会議に参加していただいているが、意見等はほとんどみられず、運営に反映させることができない。	○	意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに面会者等へ公表できるよう、ホームで家族のみで話し合える場や家族会等が設けられることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来直接かかわる職員の退職はなく、運営者、管理者も馴染みの職員が対応することが重要であることを理解している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・会議の参加の機会は全職員にあるが、研修後の報告を行う時間や研修報告書を閲覧するシステムは整っていない。	○	研修報告の時間や研修報告書を全職員が閲覧できる体制を整え知識の共有化を図ってほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は同業事業所との交換研修等もあったが、最近は行っていない。	○	同業事業所のネットワークを大切にして、相互で学習会や交流を持ちサービスの質の向上に努めてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでホームへ入居する方は入院先から直接入られるケースが多く、入居される方の心理的なフォローを考えた入居体制で取り組めていない。	○	入院先から直接入居するケースでもホーム関係者は面会の機会を持ち顔馴染みになったり、入居後しばらく家族の訪問を増やしていただくなど利用者の安心につながる利用方法を模索してほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はそれぞれの利用者の得意分野を把握しており、自然な流れで調理の下ごしらえや草取りを行ってもらい、感謝の言葉や労いの態度で接し、お互い支え合う関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を把握しやすくするためホーム独自でシートをつくり理解に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに担当職員が決まっており、月に一度職員全員参加の会議の中で情報を出し合い介護計画を話し合っている。また計画作成前に面会時等に家族の意向もうかがい取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃の細かな入居者の変化は介護計画の評価と合わせて検討し、次の介護計画が現状に即したものとなるよう見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や利用者の状況・要望に応じ、ホーム独自のサービス提供などは行われていない。	○	その時々利用者や家族の要望に柔軟に対応し、ホームの独自性を活かしたサービスの提供が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームへ入居するケースが入院先から直接入ることがほとんどだったため、病院担当医から状況等情報提供を受けホーム入居後も継続して医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制は整っているが、入居者が重度化した場合や終末期のあり方については取り決めはない。	○	入居者が重度化した場合や終末期のあり方について家族・医師・看護師を交えて話し合い、ホームとしての方針を決め共有してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導や更衣を促す際は周囲を配慮した上で言葉をかけ気づかれないように移動した後に介助を行っており、誇りやプライバシーを損ねない対応ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個々の入居者のその時の気持ちを尊重し、外で草取りをする人、居間で歓談する人、それぞれのペースを大切に、見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個々の力量を把握した上で皮むきのみできる方にも食事作りを手伝っていただく等職員が一方的に行うようなことなく準備できている。また職員は毎食同じ食事を摂り、同じテーブルを囲んでの食事時間を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者は週3回は入浴していただいている。またそれ以外にも毎日希望を確認して入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃係わる中で入居者の得意分野を把握し、生活歴も考慮した上で草取りや食事作り準備、食堂の片付けなどを押し付けでない促しで行ってもらい役割を持ち張り合いを持って生活できる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回外出を企画し、ショッピングセンターや観光名所に出かけ気分転換を図っている。また日常的に散歩や庭での運動などその日の天気や気分に応じてホームの外に出る支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内の鍵は内鍵で夜間のみかけている。玄関から入居者が出て行く様子がみられる場合は声をかけ、行動を把握し同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は同じ敷地内の病院と合同で消防署の指導の下、年一回実施しているが、地域の人も含めた災害対策や訓練は実施していない。	○	運営推進会議等で地域に協力を呼びかけ、日中夜間を問わず入居者が避難できる体制を整えてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1400キロカロリーを目安に献立を考えており、毎食時の摂取量や水分量は記録し健康状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともと木造の平屋家屋を改築し、ホームとして使用しており、共有空間は台所と食卓、リビングがつづきになっていて、常に人の行動が把握できる。玄関先には植木の花が多く飾られ季節感のある雰囲気を感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は床張りの部屋と和室がありそれぞれ馴染みの家具の持ち込みや写真を飾る等を行い入居者が居心地のよく過ごせるような工夫をしている。		